

## (9) 四国



四国地域では、景気は弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

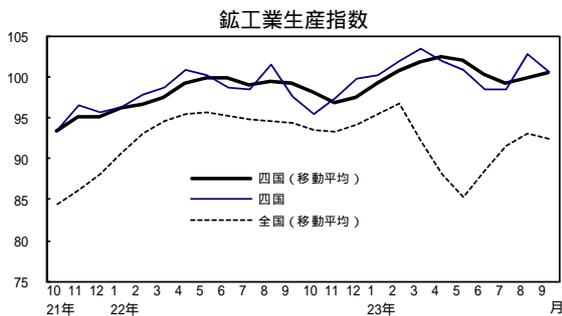
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年8月)	今回(平成23年11月)	
住宅建設	大幅に増加	増加	
雇用情勢	弱含み	持ち直しの動き	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

化学は、ポリカーボネートを生産する一部の工場で定期修理があったことなどから、減少している。電気機械は、半導体集積回路、開閉制御装置の需要が国内であったことなどから、増加している。食料品は、清涼飲料水、肉製品の需要が落ち込んだことなどから、減少している。パルプ・紙は、一部の工場で定期修理のほか、東日本大震災の代替生産が落ち着いたことなどから、減少している。一般機械は、建設用クレーンの受注が東日本大震災の影響から回復したことなどから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	17.1	3.7	3.3	0.3	1.7
電気機械	15.4	6.9	1.9	1.5	3.5
食料品	13.6	0.5	4.3	2.5	10.0
パルプ・紙	11.8	3.2	2.3	0.9	6.0
一般機械	8.9	1.9	15.5	11.0	18.3
鉱工業	100.0	1.6	0.3	1.0	2.2

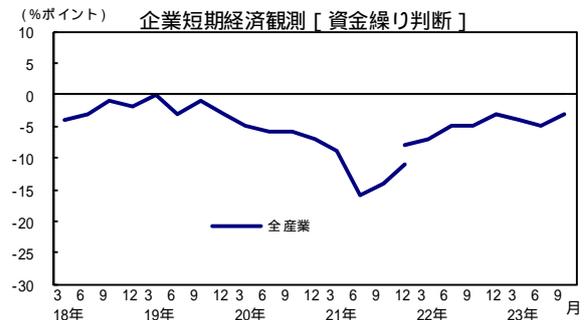
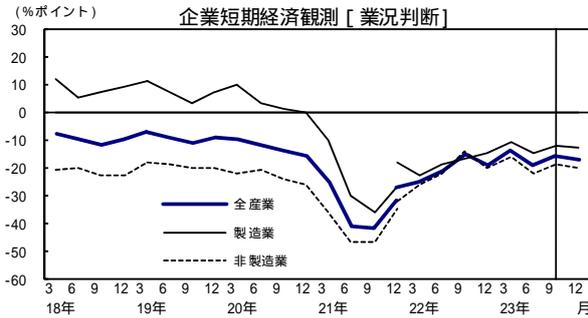
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

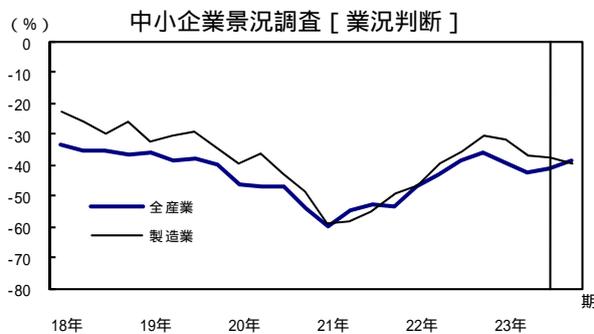
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

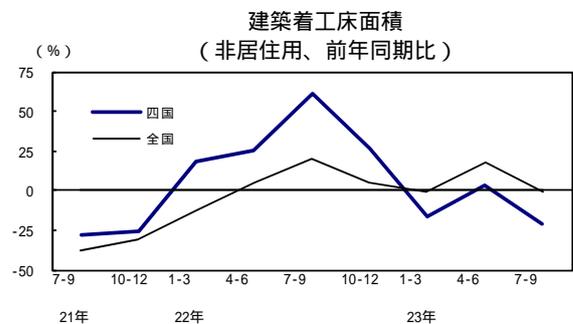
「発注は順調に推移しており、特に不況感はない。商況が悪化している小売店もあるが、全体的には悪くない(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2	17.0( 13.8)
製造業	32.4	20.6( 11.1)
非製造業	23.1	11.5( 18.7)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。



四半期

## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

### 大型小売店販売額

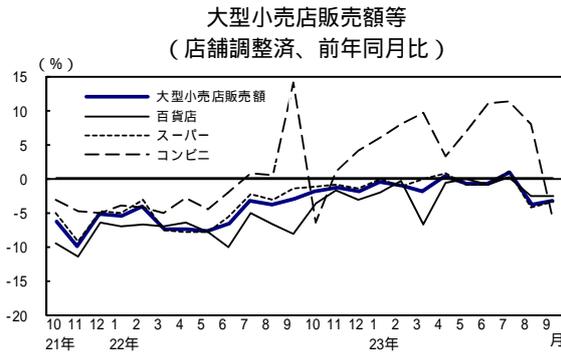
大型小売店販売額は、前年同期比で2.0%減、前期比で0.7%減となった。

百貨店は、7月は、婦人靴やバッグ等が好調なほか、高額品の一部で動きがあったことなどから、前年を上回った。8月は、日曜日が1日少なかったことや天候不順の影響により入店客数が減少したことなどから、前年を下回った。9月は、台風の影響により入店客数が減少したことに伴い、アクセサリーやハンドバッグ等が低調だったことなどから、前年を下回った。

スーパーは、天候不順などから、前年比の減少幅が拡大した。

### 景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「比較的高額な商品の引き合い件数について、これまでは堅調であったが、ここに来て徐々に減少してきている(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店(*1)	1.7	1.2	0.4	2.0
百貨店(*1)	2.9	3.2	0.6	1.5
スーパー(*1)	1.3	0.5	0.4	2.2
大型小売店(*2)	1.0	0.4	1.1	0.7
(季節調整値)(*3)	( 0.2)	(0.4)	( 0.5)	( 0.7)
乗用車(*4)	30.5	27.8	38.9	24.7
(季節調整値)(*4)	( 33.3)	(2.4)	( 18.0)	(31.7)

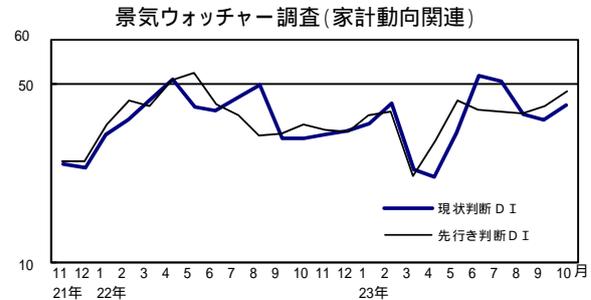
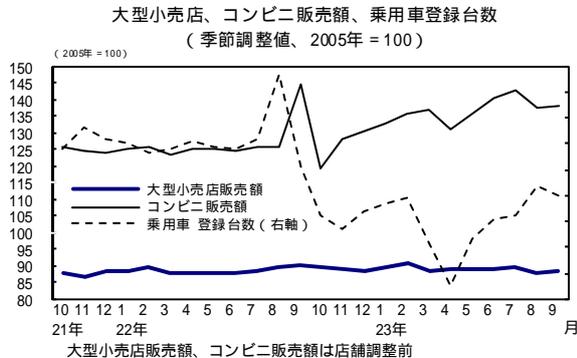
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

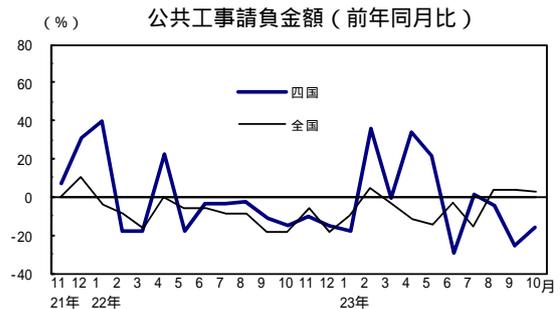
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

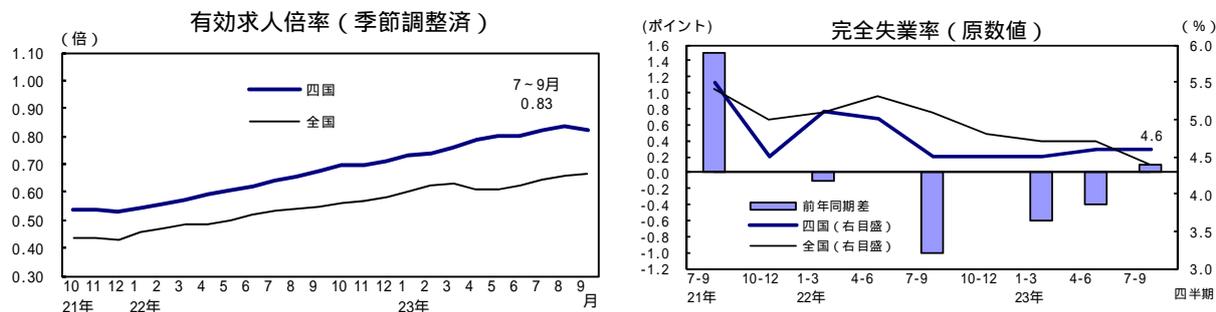


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準である。



景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]

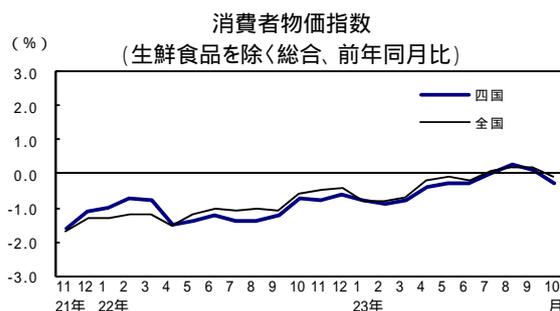
「医療・福祉やサービス業においては新規求人数が増加している一方、これまで求人数が多かった製造、小売業において新規求人減少しており、全体数では変化がない(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいであり、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年10-12月	23年1-3月	4-6月	7-9月	23年10月
倒産件数	65	72	55	80	15
(前年比)	36.3	1.4	41.5	1.2	25.0
負債総額	100	125	158	250	33
(前年比)	94.4	42.8	17.5	13.5	50.1



景気ウォッチャー調査 (10月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・前年同月に比べ、来客数及び売上高共に上回った。紳士、婦人共に秋物ファッション商品、また宝飾や美術品等も好調であった。食品についても催事が好評で売上を伸ばした(百貨店)

<先行き>

- ・テレビの需要が見込めないもので、ほとんど今と変わらないと推測される(家電量販店)

